

認 知 症 の 経 過 と 対 応

認知症の 段階	元 気	気づき	軽 度	中等度	重 度		
	日常生活は自立している	物忘れがみられるが、 日常生活は自立	物忘れが多くなるが、 日常生活はほぼ自立	日常生活にだれかの 見守りが必要になる	日常生活に手助け・ 介護が必要になる	常に介護が必要になる	
本人の様子 (症状や行動)	- 健康づくりや介護予防に 取り組む - 地域とのつながりを大事 にする - 今後の生活設計について 考える (介護・医療・金銭など)	- 物忘れの自覚がある (周りの人からも言われ始める) - ことばが出にくく、「あれ」「それ」と言うこと が増える - 片づけが苦手になる - 外出が面倒になる	- 金銭管理や買い物などに ミスがみられる - 新しいことが覚えられな くなり、約束したことを 忘れてしまう - 食事の支度が苦手になる - 探し物をするが増える - 怒りっぽく興奮しやすい - 自信を喪失する	- 服薬管理ができない - 電話や訪問者の対応が 、一人では難しくなる - 道に迷うようになる - 買い物など、今まで出来 たことにミスが目立つ - 書類作成や手続きが難し くなる	- 着替えや食事、トイレな どが、うまくできない 「財布をとられた」「お 金がなくなった」「物が なくなった」と言い出す - 自宅がわからなくなる - 日にち、時間がわからな くなる - ついさっきのことも忘れる	- 言葉によるコミュニケー ションがとれず、意思の 疎通が難しくなる - 表情が乏しくなる - 家族の顔、名前を忘れる - 食事、排泄、入浴、移動 など、生活全般に介護が 必要になる - 車いすやベッド上での生 活が、長くなる	
家族の方の 心得・対応の ポイント	本人と一緒に、健康習慣 や認知症予防に関する取 り組みをする 	- 年齢のせいにはしない - 自信を無くすような声かけはしない - 気になったら、早めにかかりつけ医や相談窓口 に相談する - 認知症についての勉強をする  		- 同じことを聞かれても、 怒らず対応する - 何でもかんでも取り上げ ず、本人が出来ないこと をサポートする - 介護保険サービスの利用 を開始する	- さまざまな症状が現れて きて疲れる時期。人の助 けを借りよう - 介護保険サービスの利用 は、通所系サービスのみ では困難になる 訪問系 や泊まり系サービスなど も考える	- 本人が安心できるような 環境づくりを心がける - 最期の迎え方について、 家族で話し合いをして おく	
相談先	川場村役場健康福祉課 ・ 川場村地域包括支援センター ・ 認知症初期集中支援チーム ・ 居宅介護支援事業所（ケアマネジャー）						
医 療	かかりつけ医 ・ もの忘れ外来 ・ 群馬県認知症疾患医療センター（内田病院） ・ かかりつけ薬局						
介護予防	ヘルスアップ教室 ・ ほっこり教室 ・ にっこり教室						
	ハッスル教室 ・ すこやか教室						
交流の場	かわたんふれあいカフェ ～ 認知症カフェ ～						
	ふれあい ・ いきいきサロン						
	KAWABA組						
	かわたんふれあいカフェ（認知症カフェ兼）						
介 護	かわば之杜 ～ 生品分校 ～						
	介護保険を申請して使える サービス	通う場所	－ デイサービス ・ 通所リハビリ				
		家事や介護の手助け	－ 訪問介護 ・ 訪問看護 ・ 訪問リハビリ ・ 訪問入浴 ・ ショートステイ				
		住まいを整える	－ 住宅改修 ・ 福祉用具貸与 ・ 福祉用具購入				
入所する		－ 有料老人ホーム ・ 介護老人保健施設 ・ 特別養護老人ホーム 等					
生活支援	本人が行方不明になってしまうかもしれないとき 高齢者等安心見守りネット（事前登録）						
	日常的な金銭管理、財産や各種契約行為などに困ったとき 日常生活自立支援事業 ・ 成年後見制度						
	受診や買い物などの移動手段がなく、困ったとき 福祉有償運送事業						
	悪徳商法の被害にあったとき 消費生活センター						
	その他の生活支援サービス 在宅高齢者生活支援サービス（配食サービス、緊急通報装置、安心カード、福祉用具貸し出し） 生活支援サービスマッチング事業（ボランティアセンター）						